

## 京都グレインシステム株式会社

# 2019 年度 環境経営レポート

(対象期間： 2018 年11月1日～ 2019 年10月31日)



作成日： 2019年1月14日

# — 目 次 —

項 目	ページ
ご挨拶・環境経営方針	1
組織の概要	2
環境経営組織図	3
環境経営目標及びその実績	4
環境経営計画の取組結果とその評価	5
環境活動	6
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟等の有無	7
代表者による全体の評価と見直し・指示	8

## ご挨拶

京都グレインシステム株式会社は創業以来、経営理念「健康と感動を食生活へ」のもと、事業活動に取り組んできました。飲料事業から食品事業へ拡大し、“市場にないものが欲しい”というお客様の難しいニーズにも応えてきました。

### □環境経営方針

## 環境経営方針

当社は、環境にやさしい食品製造業を目指し、行動指針のひとつである「もったいない」の精神を育てよう（歩留まり・不良加工・工程のムダ・省力化の改善）を基に、環境保全の推進・維持に取り組めます。また、法令を守り環境の事を考えた商品の購入（グリーン購入）に努めます。

### <必ず取り組む行動>

- 省エネルギー化
- エネルギー使用量管理、見える化
- 井水・排水量及び水質管理、再利用化
- 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
- 廃棄物の削減、リサイクル化
- 法令遵守とグリーン購入の推進

2018年11月1日制定

京都グレインシステム株式会社  
代表取締役 田宮 尚一

## □組織の概要

### 会社概要

当社の概要は次の通りである。

社 名 京都グレインシステム株式会社

資本金 2,000万円

従業員数 78名（2019年12月現在）

所在地

本 社 〒600-8233

京都市下京区油小路通木津屋橋下ル北不動堂町480番地

資生堂京都ビル

TEL：075-353-8833 FAX：075-353-8837

奈良工場 〒632-0111

奈良県奈良市小倉町1224

TEL：0743-84-0396 FAX：0743-84-0397

石川工場 〒920-0020

石川県河北郡津幡町字湖東311-2

TEL：076-289-7794 FAX：076-289-7796



### 事業内容

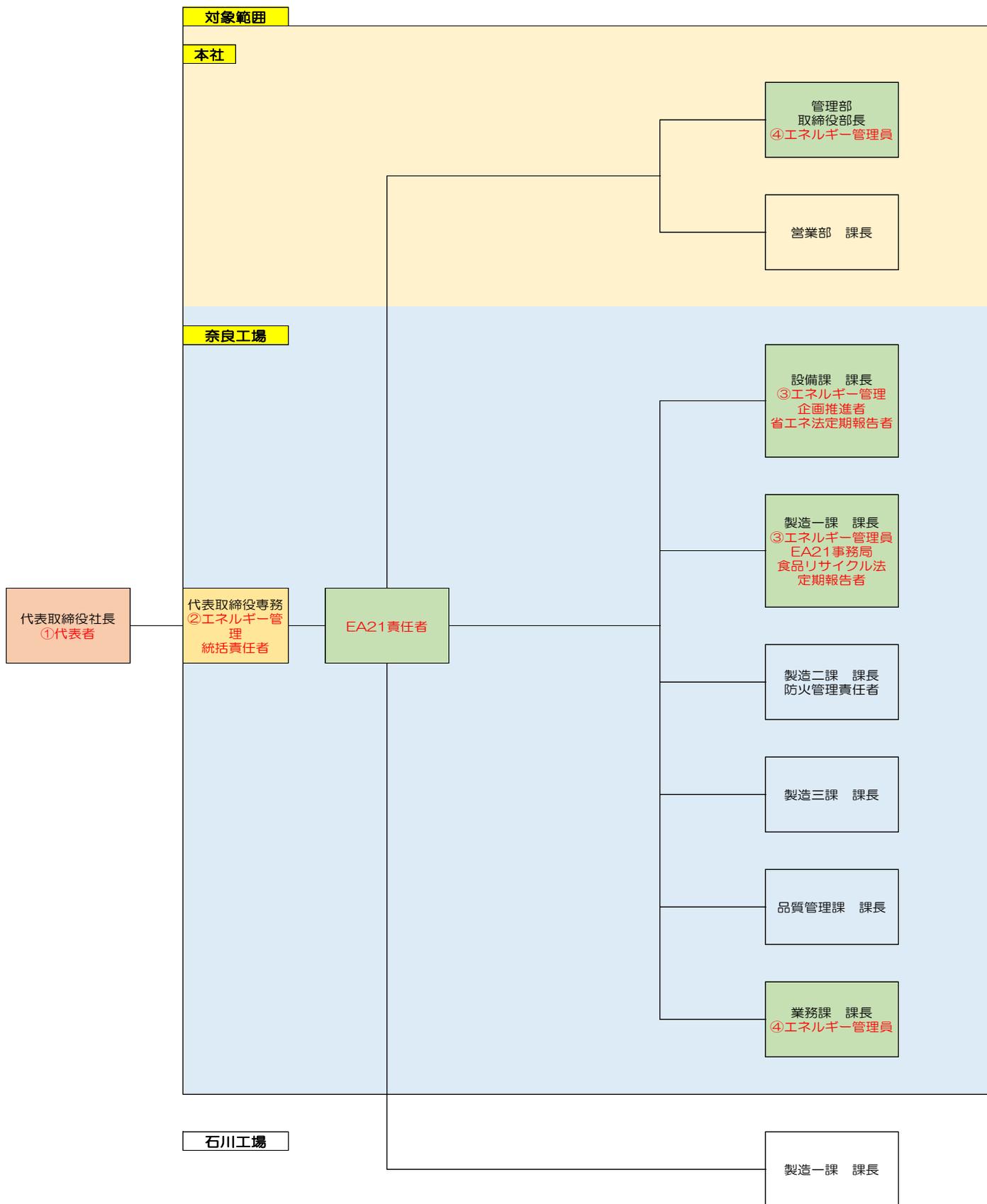
農産物の製造加工及び受託加工

- ・ 飲料原料事業（玄米茶、麦茶、穀物茶 他）
- ・ 食品原料事業（発芽玄米、きな粉、雑穀パフ 他）
- ・ 健康食品原料及び生薬原料の刻み加工事業（原料加工）
- ・ 海外輸出入事業（中国茶 他）

対象範囲 本社・奈良工場（石川工場は4年以内に対象範囲に加える。）

対象活動 全活動

	本社	奈良工場	石川工場
従業員	12人	62人	4人
面積 敷地 床	71㎡ (床)	7,300㎡ (敷地)	㎡ (敷地)
売上 比率	—	90%	10%
対象範囲			



環境経営目標及びその実績

環境目標一覧表

策定日：2018年11月1日

環境目標	取組サイト	基準年度(2018年度)実績値		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		基準年度売上(百万円)	2956.5	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減 (kwh/売上百万円)		対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		奈良工場	541	535	530	525	519	514
	電気二酸化炭素合計 (kg-CO2/売上百万円)		0	0	0	0	0	0
	燃料(LPG)使用量の削減 (kg/売上百万円)		対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		奈良工場	291	289	286	283	280	277
	燃料(LPG)二酸化炭素合計 (kg-CO2/売上百万円)		875	866	857	849	840	831
	奈良工場二酸化炭素排出量合計 kg-CO2/売上百万円		875	866	857	849	840	831
	京都本社 ガソリン使用量 (L)		対基準年度削減% (2018年11月～2019年1月)	—	1.0	2.0	3.0	4.0
		ガソリン	2,418	実使用量調査 中	2019年度使用量 ×0.99	2019年度使用量 ×0.98	2019年度使用量 ×0.97	2019年度使用量 ×0.96
		軽油	1,492	実使用量調査 中	2019年度使用量 ×0.99	2019年度使用量 ×0.98	2019年度使用量 ×0.97	2019年度使用量 ×0.96
京都本社二酸化炭素排出量合計 kg-CO2/売上百万円		0.0172	実使用量調査 中	2019年度使用量 ×0.99	2019年度使用量 ×0.98	2019年度使用量 ×0.97	2019年度使用量 ×0.96	
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物の削減 (kg/売上百万円)		対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		奈良工場	30.2	29.9	29.6	29.3	29.0	28.7
食品廃棄物再生利用実施率の 向上維持			基準年度(2018年度)%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%
		奈良工場	95.3%	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持
水使用量の削減	地下水使用量の削減 (㎡/売上百万円)	奈良工場	基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		使用量	6.4	6.4	6.2	6.1	5.8	5.5
グリーン購入の推進	環境負荷低減商品の使用	全社	使用商品のG商品使用率	基準年度値維持			基準年度+5%	
	事務用品・車両・照明器具		70%	70%以上	70%以上	70%以上	75%以上	75%以上
製品及びサービスに係る環境配慮	容器包装の適正化		過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止

※電力のCO2排出係数は株式会社エネットのメニューAの為、「0」となる。  
 ※本社は4事業者と共用のため、電気、水、廃棄物量は目標設定しない。  
 ※奈良工場の車両燃料、事業系一般廃棄物は僅少のため、目標設定はしない。  
 ※目標値に伴う売上金額は基準年度の売上額を基に計算している為、暫定値となる。

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

環境活動計画／実績表

期間 2019年度(2018年11月～2019年10月)

：目標値超過

環境目標	環境活動	月別の計画／実績															
		2018年11月	2018年12月	2019年1月	2019年2月	2019年3月	2019年4月	2019年5月	2019年6月	2019年7月	2019年8月	2019年9月	2019年10月	集計	数値評価		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減(kWh/売上百万円) CO2排出係数「0」	計画	604	687	663	700	473	469	537	435	494	535	483	540	6619		
	基準年比 1 %減	実績	585	498	634	546	493	403	456	491	482	450	543	424	6004	○	
	燃料使用量(kg/売上百万円)	計画	299	350	324	411	316	288	319	236	228	244	247	287	3549		
	基準年比 1 %減	実績	338	281	350	318	279	244	252	296	262	208	265	232	3325	○	
	奈良工場CO2合計	計画	898	1051	973	1233	950	865	958	709	686	731	741	861	10655		
	kg-CO2/売上百万円	実績	1016	843	1050	953	836	734	755	890	786	624	797	697	9982	○	
	京都本社 ガソリン使用量(ℓ)	ガソリン	計画	857	903	722	700	1038	844	820	784	733	884	624	844	9753	
	ガソリン 排出係数 2.32		実績	866	912	729	707	1048	852	829	792	741	893	630	853	9851	×
	軽油	軽油	計画	0	0	96	102	100	144	97	43	138	140	85	101	1045	
	1 %減		実績	0	0	97	103	101	145	98	43	140	141	86	102	1055	×
京都本社CO2合計	計画	866	912	827	810	1149	998	926	835	880	1034	716	955	10907			
(kg-CO2)	実績	2010	2117	1949	1911	2698	2360	2181	1952	2086	2443	1689	2248	25641	×		
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物の削減(kg/売上百万円)	計画	30	79	0	53	27	25	35	38	28	20	28	0	363		
	基準年比 1 %減	実績	46	48	41	28	73	137	29	56	46	23	40	33	600	×	
	食品廃棄物再生利用実施率の向上維持	計画	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%		
基準年実施率以上維持	実績	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	95.85%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	99.65%	○	
水削減	水使用量の削減(m <sup>3</sup> /売上百万円)	計画	6.4	8.2	7.1	7.2	5.1	6.1	7.3	5.4	6.1	4.9	6.2	7.9	78.0		
	基準年比 1 %減	実績	6.5	6.5	8.8	6.5	4.9	4.7	5.7	6.3	5.8	4.1	7.2	4.4	71.4	○	

□環境活動

＜環境活動＞		評価基準	5: ほぼ 100% 取り組みができた	4: 75% 程度の取り組みができた
			3: 50% 程度の取り組みができた	2: ほとんど取り組みなかった
		1: 全く取り組みなかった		
電力使用量の削減	不要照明の消灯の継続	4	<p>基準年度比較で、生産量及び売上げが増加し、原単位では、8%削減となった。生産効率向上の結果となった。</p> <p>今後も引き続き節電への意識を高め、高効率な製造ライン化を推進する。尚、空調の温度管理に関しては作業に支障をきたす恐れがあった為、設定温度を変更し対応した。</p>	
	空調の温度管理の継続 暖房時： 22℃ 冷房時：	3		
	OA機器等の省エネ設定および 不使用時の電源オフ	4		
	電気使用機器の省エネの検討	4		
燃料使用量の削減	燃焼設備 空気比の調査と適正化	4	<p>乾燥・焙煎機のパーナーを業者にて定期的(2年/回)に点検すると共に日常点検として炎の色管理・フィルタ清掃を実施した結果、適正な燃焼で運用出来た。</p> <p>原単位では、6%削減となった。</p> <p>また、余分な暖気や不必要な運転は見受けられなかった。</p>	
	機器の暖機及び運転時間の短縮	4		
	—			
	—			
京都本社 ガソリン使用量	公共交通機関の利用	3	以前からの取組の為、継続的に活動を推進する。今後は、エコドライブ活動も実施する。	
産業廃棄物の削減	再利用化の推進	4	<p>以前からの取組の為、継続的に活動を推進する。</p> <p>有価物の発生量が増えたが社外要因が大半を占めている。その旨、定例会議でも2度報告し周知した。</p> <p>設備関係として更新時に旧機器でも効率が悪くならないのであればリユース化をはかる。</p>	
	—			
	—			
食品廃棄物再生利用実施率の 向上維持	食品廃棄物再生利用実施率向上	4	<p>以前からの取組の為、継続的に活動を推進する。</p> <p>今後も、ロス量軽減に努めると共に有価物の新たな再利用化を模索していく。</p>	
	—			
水使用量の削減	節水	4	以前からの取組の為、継続的に活動を推進する。	
環境活動の推進	グリーン購入の推進	継続中	事務用品は、概ね実施は出来ている。機械関係に関しては、省エネ対応が増えてきている為、グリーン購入を推進しやすい。	
	容器包装の適正化	過剰使用禁止	改善を図り、資材ロスが軽減できたが、更なる改善を図るため引き続き包装資材ロス量の把握検証を実施中。	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法令についての違反、訴訟等はありません。また、関係当局からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

法律名	適用設備及び活動	記録その他	評価
大気汚染防止法	乾燥機	ばい煙発生施設設置届出書	○
		ばい煙測定報告書	○
水質汚濁防止法	公共用水域への排水口	特定施設設置届出書	○
		水質分析	
		50m <sup>3</sup> 以下/日	
騒音規制法	コンプレッサー・送風機・穀物 用製粉機	騒音規制法特定施設届出届	○
	敷地境界騒音レベル	騒音測定 記録	○
振動規制法	コンプレッサ	コンプレッサ仕様一覧表	○
	敷地境界線上 振動レベル	騒音測定 記録	○
自動車No x ・PM法	ダンプ（普通）	自動車検査証	○
浄化槽法	合併浄化槽	届出書	○
		浄化槽保守点検記録表	
廃棄物処理法	産業廃棄物	委託契約書	○
		許可証	
		マニフェスト	
		報告書	
食品リサイクル法	奈良工場	定期報告書の提出	○
容器包装リサイクル法	特定容器利用事業者	指定法人引き渡し	○
省エネ法	灯油、ガソリン、軽油	—	○
	その他エネルギー	—	
	使用設備	—	
	全社	定期報告書の提出	
フロン排出抑制法	7.5kW以上50kW未満のエアコン	定期点検表	○
消防法（危険物）	少量危険物貯蔵設備 980ℓ屋外タンク	少量危険物貯蔵取扱届出書	○
		甲種防火管理講習修了証	
水銀汚染防止法	蛍光灯・水銀灯の廃棄時	マニフェスト	○
悪臭防止法	焙煎設備	臭気強度	○
	敷地境界線レベル		
	工場・機械排出口		

## □2019年10月30日 消防訓練の実施概要

今回の消防訓練では、一人一人が真剣に実際の火災を想定し非難に取り組めた事は良かった。今回の訓練は実際の火災を想定し、事前に訓練日は伝えていたが実施時間は伏せていた。実際に火災が発生する時間帯によって工場内の人数や作業場所を確実に把握するのはかなり難しく、自衛消防隊のメンバーが夜間や早朝に出勤しているとは限らない為、社内全体で改善していかないといけないと感じた。

今回は新入社員に対して、水消火器を使用して消火訓練を実施。また動力ポンプにおいても、運転側と放水側の両面から体験して頂き習得する事ができた。



## □代表者による全体の評価と見直し・指示

EA21の認証初年度ととしては良い結果だったと受け止めている。一度に大きな取り組みを進めると品質面等に弊害が出る可能性もある為、考慮しながら少しずつ取り組みを進めてほしい。今年度及び次年度は客先や行政からの環境関連の要求が特に多くなると見ているが、一方で同業他社と比較しても当社の品質・環境関連の取り組みは先手をうてており、営業活動としても強みになるのではないかと。

また、地震や台風等の災害が多く温暖化も進む中で環境への取り組みは当然であるが、北海道では以前育たなかった作物が作付けできる状況へ変化していることから、今後は北海道工場の運用を進めていく上でも新商材のチャンスといえる。